

BROADCAST CREATORS ASSOCIATION OF JAPAN

放送人の会

No.66

2014.5.30

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel & fax 03-3221-0019 Mail info@hosojin.com

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉 編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、逸見京子、前川英樹 (HP担当)、松尾羊一 事務局 佐藤真美子、須斎恵美子

放送人グランプリ2014(第13回)贈賞式



高橋 鍊氏	伊藤清隆氏	宮崎氏夫人	中尾伸治氏	宮崎賢氏	倉澤治雄氏	野村正人氏	森崎俊雄氏	村上徹夫氏	上田崇順氏	水野晶子氏
池端俊作氏	夜久恭裕氏	井上恭介氏	内山聖子氏	今野 勉氏	堀川とんこう氏	五十嵐文郎氏				
田中 正氏										
斉藤正氏										

放送人グランプリ2014(第13回)受賞理由

放送人グランプリ テレビ朝日開局55周年記念 山田太一ドラマ

「時は立ちどまらない」制作チーム(テレビ朝日系2014年2月22日放送)

東日本大震災が現地の生活者に与えた喪失感を、明暗二家族の交流のなかで屈託する本音として描いたこのドラマは、震災三年後の現実を、強い衝撃度と説得力をもった作品にしました。主人公たちが、意識のミソと葛藤しながらに閉わらずにいられない衝動のひろがりこそ人と地域の再生のななめであることを、ドラマは提示します。

よくねられた脚本の訴える尊敬と自律の視点を、感動的なドラマに仕上げた制作者たちの熱意をたたえて

脚本・山田太一 プロデューサー・五十嵐文郎、内山聖子 演出・堀川とんこう
出演・中井貴一、柳葉敏郎、樋口可南子、黒木メイサ、橋爪功ほか

準グランプリ NHKスペシャル「終わりになき被爆」との闘い、被爆者と

医師の68年」制作スタッフ (NHK広島 2013年8月6日放送)

いま被爆者のあいだで、第二の白血病といわれる不治の病が相次いで発生しています。被爆から69年、終息したと思われていた白血病が、なぜ、「自分の中に原爆がある」と言っ
て亡くなった患者たちと医師の長年の闘いによって明らかになった骨髄異型性症候群・MDSのメカニズム。一瞬の放射線が遺伝子を傷つけ、時限爆弾のようにつきつきと爆発するのです。朝永医師は、国際会議で「原爆は最悪の疫病、根絶には核廃絶しかない」と訴えましたが、福島の原発事故・再稼働・原発輸出などの新しい問題をかかえる日本に向かつて、この番組が投げかけるメッセージは重いのです。
プロデューサー・井上泰介 ディレクター・夜久恭裕

優秀賞 土曜ドラマ「足尾から来た女」制作スタッフ (NHK総合2014年

1月18、25日放送)

「よく見ておけ、これが今の日本だ。銅を手に入れるため川を汚し、村をつぶし、住む者を殺したんだ」という田中正造のセリフが、そのまま現在の福島の風景を想起させ、見る

者の心をするどく刺します。すぐれたテレビドラマは物語の豊かさと同様に、時代認識を刺激し、ある種の報道性を帯びるのです。柄本明の好演によって生き生きと立ち上がった田中正造の像が、現代における「義人の不在」をも告発しているようでした。

脚本・池端俊作 プロデューサー・高橋謙 監修・田中正
出演・尾野真千子、柄本明、鈴木保奈美ほか

優秀賞 ラジオ報道特別番組「原発作業員が語る二年」森崎俊雄

(毎日放送2013年3月31日放送)

東京電力福島第一原発事故から3年。収束の見通しもたないなか、現場で作業する人々の声は、ほとんど聞こえてきません。高い放射能量、五次、六次という下請け構造のなかで日当をピンはねされながら働く作業員たち。映像のないラジオだから可能になった作業員の肉声は、原発事故と福島原発の今をみごとに音で描きだしました。ほり強い報道姿勢は賞賛に値します。

PD・森崎俊雄 アナウンサー・上田崇順 水野聖子

企画賞 「Youは何しに日本へ？」制作チーム (テレビ東京・月曜夜19

時)放送)

知恵と努力を惜しみなく使い、成田空港に到着した外国人に同行取材することで、海外へ行くことなく、国際色あふれる番組を作り出す、その柔軟な発想に感服です。さらに、外国人の目を借りて、私たち日本人が忘れていた日本文化・日本の良さに気づかせてくれました。各局横並びの編成が多い中で、唯我独尊我が道を行くテレビ東京ならではの、テレ東らしさあふれる番組で、私たちを楽しませてくれたことに敬意を表して。

構成・甘菜大輔 佐藤充彦、寺村由加里、長島祐尚
CP・加藤正敏 プロデューサー・村上徹夫 総合演出・野村正人

奨励賞 NNNドキュメント「13「離島ナース 医師のいない厳冬

を守る」制作スタッフ (山形放送2013年4月14日日本テレビ系放送)

山形県酒田市の離島飛島(としま) 厳冬期、海が荒れれば定期船はもつらん、ヘリコプター

も近づけない。常駐医師が去つてい、二人の看護師が、島民の大半が高齢者という島唯一の診療所を守っています。緊急時には、酒田の病院と結んだテレビ電話で医師と患者をつなぎ、投薬の指示を得るといふもどかしさ。海をへだててそびえる島海山の美しさ、離島医療の貧困との不条理な関係を通して、地域をみつめた佳作ドキュメンタリーです。プロデューサー・伊藤清隆 ディレクター・斉藤正

特別賞 倉澤治雄(くらさわ はるお)氏 (科学ジャーナリスト)

原発事故の悲惨さは、その原因も被害の実態も、一般人の皮膚感覚ではよくわからないものです。だからこそ、優秀な科学ジャーナリストが求められますが、倉澤氏はこの道の第一人者として、ここ3年福島原発事故に精力的に取り組み、そのかかえる問題を明快に解説してきました。彼は、原子力船「むつ」取材以来の原子力に関する豊かな知見に加え、チェルノブイリやスリーマイル島の原発事故など、海外取材体験も豊富です。日本はいま、原発再稼働や廃炉、廃棄物処理をめぐる問題など、幾多の課題をかかえています。それらについても倉澤氏はするどい問題提起を行っています。(1952年生まれ、元日本テレビ報道局解説主幹、メディア戦略局主幹など。2012年同局定年退職)

特別賞 宮崎賢(みやざき けん)氏 (元山陽放送カメラマン)

「らい予防法」によって、ハンセン病療養者は終身隔離するという政策が長い間とられつづけ、岡山の長島愛生園は、二度と帰ることのない島流しの島でした。その島の取材をはじめ、34年、宮崎氏は、数々のドキュメンタリー番組・ニュース特集を世に送り出して、ハンセン病に対する社会の偏見と差別を告発し続けました。島に橋をかけてほしいと熱望する入所者の願いを描いた「もう一つの橋くハンセン病」など、ドキュメンタリー作品は今も名作とされます。宮崎氏のライフワークに対する畏敬の念をこめて、(1972年山陽放送入社、カメラマンとしてニュース、ドキュメンタリーを撮り続けた。「もう一つの橋くハンセン病」は1983年、地方の時代映像祭大賞、「生きとった証くハンセン病」は2002年、民放連賞優秀賞)

選考経過 堀川とんこう



今日は多数お集まりいただきありがとうございます。受賞者の皆さんおめでとございます。この賞は今年では3回目になり、賞の存在も業界では知られるようになりました。放送人の会の会員は選考の仕方について知っていますが、受賞者の皆さんは、存知ないので、選考の経過を、簡単に説明します。

選考はまず、2月に会報に「下馬評座談会」が掲載されます。これは10人くらいの会員が集まって数時間にわたって1年間の回顧して、それぞれ記憶に残っている、印象に残っている番組をほとんど挙げ続け、勝手な意見を言うという、まさに下馬評の座談会です。この座談会では約150本の番組について言及されます。この座談会の記事を読んで1年間の番組を思い出したりしながら、会員は放送人グランプリにかさわしいと思う番組、放送人を推薦する投票をします。この投票をもとに選考委員会が開かれ受賞作、受賞する放送人が決定します。

今年4月2日に選考委員会が開かれま

した。選考委員はここにいる5人の委員と私とで6人です。委員を紹介します。放送評論家・鈴木典之さん、ラジオ構成作家の石井彰さん、放送評論家・藤久ミネさん、コラムニスト・松山珠美さん、最近では放送評論をなさっている河野尚行さんです。このメンバーで今年約5時間、熱のこもった議論をして賞が決まりました。

今年難しかったのはグランプリの決定です。他の賞でもそうですが、いろんなジャンルと一緒に議論するとNHKのドキュメンタリーにかなわない。放送人グランプリでもこれまで半分以上をNSペ、ETT特集が受賞しています。今年もそれは続き、NSペの一つは賞に入りましたが、その他にも「日本人は何をめざしてきたか」のシリーズ、カネミ油症を扱ったETT特集の「毒と命」、いじめ自殺を扱った「ぼくは何故止められなかったのか」、植物写真家のドキュメンタリー「足元の小宇宙」、NSペの「空白の初期被爆」などがあります。それからこれは日本テレビの作品ですが大島渚のかつてのドキュメンタリー番組化した「忘れられた皇軍」。これは若い女性ディレクターが自社のライブラリーから発掘したもので、とても印象の深い番組でした。

「アマちゃん(半沢直樹)」をどうするか、という議論もあり、グランプリを何にするかは今年一番苦戦したところで、

最終的に「時は立ちどまらない」がグランプリになりました。これは私も関係者の一人で、お手盛りではないかと言われるそ

うですが、この選挙委員はともお手盛りを許すような方々ではありません。グランプリはテレビ朝日開局55周年記念、山田太一ドラマスペシャル「時は立ちどまらない」です。これについては河野選挙委員の発言が印象に残っています。「ドキュメンタリーは過去のことがらを掘り起こして検証しなおすものが多いし、貴重な発見があり、苦労も多く、調査報道として傑作がそろうているが、現在を射抜く感じはない。現在を語るものが今タブーになりつつある。その点、『時は立ちどまらない』は現在を語ることで、少なくとも語るうえで試みた。その意味で新鮮だ」という発言で、私もこれに賛同しました。

個々の番組については選挙委員の方に贈賞理由を説明して頂きます。番組を選んだのは全員ですが、その番組について最も情熱的に語る人が説明します。

「時は立ちどまらない」 鈴木典之



山田太一、堀川とんこうコンビは、37年前の高度成長期、多摩川の洪水をテーマに一つの家族の崩壊と再生を描いたドラマ「岸辺のアルバム」を作ったコンビです。

山田さんは今年傘寿を迎えますが、この円熟期に、問題提起をしたのは何故なのか。これをわれわれはきちんと受け止めなければならぬ。それが審査の基本にあつた点です。作品のテレビ的な、今日的な価値はそこにあります。

中身にちよつと触れます。東日本大震災の津波に遭った二つの家族、海辺の漁師一家と高台のサラリーマン一家の交流を通して、根こそぎやられた人と、やられずにすんだ人とのお互いに開き直れずにとらわれる心、慕情、感情のすれ、本音の衝突……そんなものもろもろの中に踏み込んで描いている。あまたのニュースやドキュメンタリーが作られました。ニュースや調査報道ではなかなか踏み込めない人の心の奥底の問題をドラマだからこそ抉り出し、最近の山田さんの作風から考えると、意を決して作った作品だと思えます。もう一つの作品のテーマは家族の力、家族的つながりの大切さです。災害から、人が深い喪失感から立ち上がるために絶対に必要です。これと考えないと災害、復興の問題はうまくいかないだろう。この作品は提示しています。震災3年にしてテレビで初めて提示された視点です。ドラマは非常に限定された条件の中で作られた小さな物語ですが、それが問いかける問題は3・11を負って生きるすべての人々が、生きる座標軸を定めるためにきちんと考えるべき問題です。そのことを山田さんは慈愛に満ちた手法でやんわりと警報を発しています。

放送人の会は放送のプロのOB集団です。それなりの見識とテレビへの深い愛情をもつています。その会員の多くがこの作品を推薦しました。選挙委員はそれではこの作品から何を読み取るべきかと長時間にわたって議論し、グランプリに決定しました。もう一つ、テレビ朝日55周年記念の大型企画の連打はまことに見事で、我々は大きな敬意を払いました。合わせてこの報告と致します。

「終りなき被爆との闘い」被爆者と医師の68年」堀川とんこう

被爆から68年経った最近、被爆者のあいだに白血病がかなりの数発見される、ということからこの番組が始まります。被爆による白血病は被爆から10年経ったときに非常に多く発症し、被爆者に絶望を与えたことを記憶していますが、それが68年経ったいま何故白血病なのか。その謎を追うようにドキュメンタリーは作られていて、白血病に長年取り組んでいる医師たちと患者たちを追いながら「私の中に原爆がある」という被爆者の声に背中を押されて、被爆者の中からだに何が起きているのかを解明しています。医師はついにその正体を突き止めます。それが骨髄異型性症候群、MDSです。そのメカニズムを突き止める治療法の模索にとりかかっています。MDSは一瞬の放射能が遺伝子を傷つけ、時限爆弾のように次々に体の中で爆発します。私たちは原発の再稼働、廃炉、廃棄物処理、

原発の輸出等々、いろんな問題を抱えています。そんなときにNHK広島が作ったこの番組の意味合いは非常に重いものがあります。

NHKは調査能力、描った人材など民放よりはるかに良い条件で作ることができ、羨ましいと嫉妬するほど中味の濃いドキュメンタリーです。

「足尾から来た女」 藤久ミネ



私は30年ほど前、NHKの和田勉さんとお話しをする機会がありまして「テレビドラマはテレビに力点を置いて作るのか、ドラマに力点を置いて作るのか、両方の考え方がある」と聞きました。「テレビとドラマと切り離してどうするの？」と思ったのですが、つまりニュース性、報道性というものがなければテレビドラマは生き生きとしない、同時にテレビドラマは安っぽくなりやすい、ということの両方をおっしゃりたくて「自分は最近ドラマの方に力点を置いてるぞ」とおっしゃりたかったようです。この「足尾から来た女」をみて和田勉さんのことを思い出しました。

番組を見て、この谷中村は今のフクシマ

の町とそっくりだと思いました。非常に報道性の強い番組です。明治時代の田中正造をはじめとする福田英子、石川啄木、石川三四郎といった有名な人々の中を足尾出身の少女「尾野真千子」がめぐるというドラマですが、単に足尾とフクシマの共通性だけではない。福田英子、石川三四郎はアナキーな論説を発表した人ですし、石川啄木には有名な「時代閉塞の現状」という本があり、現代につながる問題を代表する人物たちです。報道性もあり、ドラマとしての力もある作品でした。

若いディレクターの田中正さんが田中正造を作ったわけですが、柄本明、小野真千子の演技がいい。そして脚本が最近のドラマの中では傑出している。和田勉さんの言う「テレビとドラマの両方を充足させたテレビドラマ」として選びました。

「原発作業員が語る2年」 石井彰



今原発に関する報道がいろんな形でなされているとお感じだと思いますが、実は全く報道されていないことが一つあります。

それは今日も福島第1原発で作業している作業員のことです。東京新聞が前に異常な

形での労働条件で働いている、ピンはねがなされていると報じたことがありますが、それ以外にはほとんど見かけません。その原発作業員の現実を毎日放送が大阪からはるばる福島に通い続けて、50人以上の作業員と仲良くなって、彼らから真実の声を聞きました。このことにまず衝撃を受けました。

昨年、毎日放送は「原発作業員が語る1年」を作りました。そして2年目を作っています。当然、3年目、4年目と作るのだと思います。そんな継続性のある報道をラジオがやっていることに私は制作者として心強く思います。原発作業員の真実の声を聞かせた最大の理由は森崎プロデューサー、上田アナウンサーの人柄もさることながら、ラジオだからできた。映像のあるテレビでは彼らは語ることができません。江戸時代の5人組制度のような仕組みが作業員のあいだには敷かれていて、自分たちの待遇のことや被曝線量のことを語ると、自分だけでなく自分が所属している組が排除されてしまうというところでもない現実があります。そのことを他のメディアが取り上げなかったのに毎日放送ラジオが優れたコミュニケーションにしてくれたことを高く評価します。ラジオだから語ってくれた多くの作業員たちから、上田さんは飲み屋でどうやってあそこまで聞かされたのか。後程そのテクニクを是非お教えください。そんな放送マンが大阪にいることを知って欲しいし、日本全国の皆さんに聞いて欲しい。

い。そしてここにいらつしやる方には原発作業員のことを是非取り上げて欲しいと思います。ラジオでもテレビでも、ドラマでもどんな形でもいいから取り上げてくださるとお願いして推薦理由に代えさせて頂きます。

「Youは何しに日本へ？」

松山珠美



バラエティーの番組を推薦するのはなかなか難しくいつも困ります。この番組は日韓中テレビ制作者フォーラムに出品され、放送人の会の会員からの推薦もありました。

私個人としては深夜に見て面白いと思いつた。他の会の月間賞に推薦したのですが、その時は見ている人がなくて見送られ、しばらくしてみる人がふえて無事月間賞に上がりました。バラエティーはちよつと見るとどのチャンネルか分からない開演の状態ですが、その中でテレビ東京は我が道を行く独自のスタンスで、それが視聴者に支持されているのだと思います。業界の人はやっかみで「お金がかかっていない」と言いますが、よく見るとちゃんとお金がかかってい

ます。

この番組はタイトルでわかるように成田空港で外国から日本に来た人にインタビューする番組です。この番組の発想は素晴らしい。サラリーマンにインタビューするなら新橋、主婦なら武蔵小山、オカマは2丁目など、業界の常識がはびこっています。外人にインタビューするのにこちらから外国へ行くのでなく待ち構えて撮るといふ地引網みたいな発想に驚きます。私がテレビのころには「兼高かおる世界の旅」「なるほどザ・ワールド」など、世界にはこんなことがありますよ、とわくわくするような番組を見ていました。今、日テレの「行って何が見たりやったりするパターンです。『Youは何しに』」は成田で待っているだけ。たまに大物タレントが釣れたりするのですが、そのタレントに多分ギャラは払っていない。そんな視聴者に近いところからの番組の作り方がうけているのだと思います。

この番組には語学番組の要素もあり、各国の言葉は音で聞こえてテロップが出ます。それでいろいろな国の言葉が勉強できます。

日本人は、外国人は京都、奈良、鎌倉などへ行きたがる。勝手に思い込んでいます。が全然そうではない。聞いたこともない田舎へ行く用事があるとか、100円ショップで買い物をするとか、そんな外人目線でデイスカパー・ジャパンの要素があります。そんないろんな要素があつて素晴らしい。

この番組があつてバラエティー番組を推薦
できてよかったです。

「離島ナース 医師のいない厳冬を 守る」 藤久ミネ

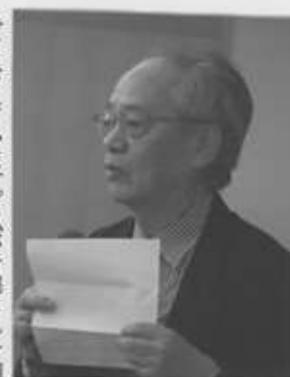
地方の局が制作した番組を推薦したいと
思つて山形放送の番組を推薦しました。
山形県の酒田市に近い飛島という離島が
あります。そこが無医村になりました。無
医村はあちこちにあつて、陸続きの場合は
お医者さんを呼ぶことは差ですが、飛島は
海が荒れるとどうしようもない。船はもち
ろん時にはヘリも飛ばない。その中で二人
の女性看護婦さんが約230人の高齢者の
多いところで一所懸命医療に当たつておら
れます。それを淡々とドキュメントしてい
ます。この島から見る島海山がとても綺麗
です。しかしお医者さんがいなくて指示が
ないので看護婦さんは薬の調合もできない。
面白いのはテレビ電話で、酒田のお医者さ
んとつなぎ、テレビ電話の画面で患者を診
断します。しかしこれは無意味というか、
やはり医療は医者と向き合つてやらなけれ
ばダメだということがよくわかります。最
近介護ロボットが生産され出回つており、
私もそのうち「厄介になるかもしれないの
ですが、ロボットの世話になるのは嫌だと
いう心境です。

倉澤治雄氏

河野尚行

今もつとも活躍なさつて科学ジャーナ
リストの倉澤さんに放送人の会から賞を贈

ることができてわれわれとしては名誉なこ



とだと考えています。私が倉澤さんを知つ
たのはチエルノブイリの後からですが、
3・11以降の倉澤さんの活躍は目を見張
るものがあります。NNNDドキュメントや
いろんな特集を通して原発事故がなげかけ
ている様々な問題について知ることができ
ました。原発事故はややこしい。水素爆発
はなんとなくわかるのですが、散乱した放
射性物質の本当の怖さはなかなかかわらな
い。われわれの皮膚感覚ではわからない。
放射能は見えないし匂いもない。その全容
を理解するのは難しい。原爆も同じで、凄
まじい閃光、熱線、きのこ雲、黒い雨、死
の灰は見えますが、放射能の無気味さは先
ほどの広島番組が解明したように60年
以上経つて初めて顕在化する。原子エネル
ギーを利用するようになった今、私たちに
は倉澤さんみたいな人が必要です。専門的
な知識を持ちながら専門家の知識を疑う、
そんな科学ジャーナリストが必要です。人
類が核エネルギーを使い始めたのはたかが
70年前です。核エネルギーの後始末、廃棄
物の処理についてはまだ誰も知恵を持って
いません。希望的観測をもつても原発

事故の処理には最低40年かかる。倉澤さん
はまだ60代になつたばかりです。これから
もつと頑張つていただいて、40年先はちよ
つと無理かもしれないが、原発、核の問題
について我々を啓蒙していただきたい。

ちよつと脱線しますが、NHK広島放送
局が核の問題に本格的に取り組み始めたの
は昭和35年、「日本の素顔」と教養特集で、
以来150本くらいの番組を作つてきまし
た。プレッシャーをかけますが、今年も優
れた番組を作ってください。この問題は個
人の知恵も必要ですが、継続してやるには
組織の力も必要です。先ほど石井彰さんが
言つていたようにそこに働く人もあり、な
かなか厄介ですが、現在の問題をつくこと
が重要です。

この前トルコで炭鉱事故がありました。あ
のトルコに日本は原発を輸出しようとし
ています。私は60年代の夕張炭鉱の事故を
取材したことがあります。石油ショック
のあと70年には多くの原発が建設されま
した。これらの問題について倉澤さんにも
NHK広島にもつともつと頑張つていた
だきたいと思つています。

宮崎賢氏

堀川とんこ

宮崎さんは山陽放送で長年にわたつて岡
山の長島愛生園というハンセン病患者の隔
離施設の取材を続けてこられたテレビカメ
ランマンです。こゝ最近定年になられました
が、今まで通りカメラマンの仕事続けて
おられます。宮崎さんは34年にわたつて愛

生園に通い続け、島流しの状態にあるハン
セン病患者と交流を続け、数々の優れたド
キュメンタリーを作りました。本土とこの

島の間を橋をかけて欲しいという患者の熱
い願いと闘いを描いた「もう一つの橋」ほ
か10本を超えるドキュメンタリーがあり、
JNNニュースや山陽放送のニュースに1
00本をこえる特集映像があり、ハンセン
病に対する世間の差別、偏見と闘つて来ら
れました。

今日は宮崎さんの受賞を喜んで愛生園自
治会会長でハンセン病患者者である中尾信
二さんが駆けつけてくださっています。中
尾さんも宮崎さんの長年にわたる取材とド
キュメンタリー制作に深い感謝のお気持ち
を抱いておられます。

以上をもつて選考経過の報告とします。

受賞者挨拶



内山聖子 私たちもスタッフがたゞさん
来ていますが、代表してひとこと。

名誉なグランプリほんとうにありがとうございます。
グランプリを贈るのに大変難

航したと聞き、これだけの力作の中でこんなに褒めていただき光栄に思います。3・11をドラマ、フィクションで描くというのは勇氣、覚悟の要る作業でした。山田太一先生からチーフ・プロデューサーの五十嵐とともに提案をいただいたときは、ちょっと止まるというか、本当にやれるかと迷いました。山田先生と一緒に被災地へ行き、被災された方の声を聞き、「ああ、出来るかもしれない」と思いました。津波で抉られた沿岸地の海を三羽船（さんばせん）という小さな船に乗って行くと、揺れる船の中で山田先生が被災者から聞いたことを熱心にメモしておられるのを見て、ホンが出来るのが楽しみでした。震災を伝えることについては報道やドキュメンタリーの力にドラマは絶対及ばない。それでもドラマが描くべき領域があり、脚本家が描ける現場があると山田先生は言い、二つの家族を描きました。堀川とんこうさんがタフで繊細な演出をしてくださり、中井貴一さんをはじめ強力なキャストの方々がいま被災地に生きる人たちを生きてくださいました。時は立ちどまらないので、幸福も絶望も立ちどまることなく繰り返しやってくるのだとのメッセージをこめてドラマを作りました。名誉な賞がありがとうござります。

堀川とんこう 面はゆいことです。ホンが非常に良くて、世間で「いいホンだ」と言い、出演者が豪華で、達者な役者さんが揃っていますから、監督なんて楽なものです。

と強がって見たものの、現場では脚本の良さ、俳優の面白さを殺さないのはけっこう大変なことです。いろんな苦労はありましたが、あの企画を成立させ、あのホンを山田さんに書かせ、あのキャストイングをしたプロデューサーの勝利です。ありがとうございます。

今野勉 この番組のオンエアが終わって、全然別の機会に堀川さんと山田さんが会って、たまたまその場に私が居合わせたのですが、その時堀川さんが言った言葉が印象的で覚えています。「山田さんのホンは演出家が立ち入ることが出来ないようにできています。」（会場爆笑）お世辞を本人に言ったのかも知れませんが、本当のところもあつたかもしれません。それで演出家が映像に凝り過ぎて変なところに行くことがない素晴らしい作品になったのでしょうか。



井上恭介 どうもありがとうございます。

この賞状で印象的なのは文面にきちんと「新しい問題を抱える私たちに強い衝撃を与えました」とあることです。こんな気骨のある放送人の会に褒めていただき、奇しくもこんな時期にという感じもします。河

野さんの言葉も直接いただき、ますます頑張らねばと思っております。私自身のことを言いますと、転勤族ですから、3・11のときには東京にいました。毎週震災関連のNSペをやっている最中に辞令を貰って広島に参りました。実は広島に行くのは2回目、1回目は2000年ころです。やはり震災後に広島に行く和被爆者のおっしゃることも変わりました。前は原爆と平和利用は別たと言う人は多かったのですが、いまはそうではなくなりました。私は広島は広島だと思つて番組を作り続けます。

もう一つ「里山資本主義」というのを夜久くと一緒にやっています。お金があれば豊かになるのだ、幸せになるのだという考えに疑問を發してそうじゃない道を探る番組です。ご存知のかたは多いと思います。原爆とこれと二つやっていますのでよろしくご支援ください。



田中正 僕のなまえは田中正といまして、田中正造二字違いです。小学校の時教科書で田中正造のくたきを教室で朗読させられて皆に笑われました。その経験から田中正造には強い興味がありました。自分で

調べていつかドラマにしたいと思つていましたが、どうドラマにするのかわからず、企画を出せずにいました。3・11や沖縄を知つてこれは谷中村と同じだと思い、池端俊作さんにお願ひして企画が始まりました。池端さんにも「田中正造さんの親戚ですか？」と聞かれました。田中正造や毒毒事件はドキュメンタリーの分野で、ドラマになったことはなく池端さんには苦勞していただきました。谷中村出身の女性の目線で描こうと決まつて展望が開けました。その女性の目線を通して、現在の福島の問題や、東京にいて恩恵を受けながら何もできないとか、見て見ぬふりをしていると、さまざまな等身大の問題が描けると思いました。視聴率を気にしているわけではありませんが10%を越え、びつくりしました。こんなドラマはやはり見て貰えるかと自信になりました。現代に鋭く刺さるような企画を通すのはなかなか大変ですが、賞をいただき今後につながるかと感謝しております。

どうもありがとうございます。



池端俊作 いまおっしゃったように田中さんがいろんなことを考え、いろんなもの

を持っておられてスタートした話です。私自身は、田中正造は見たことも会ったこともないので、そんな人を描くと学者には叱られるだろうし、避けた方がいいなと思いましたが。私の脚本はどっしりも小さな目線、低い目線から世界を見るところをやっています。あまり高いところから見下ろすドラマは作りたくない。谷中村は鉱毒にまみれているという風評被害で、その人たちは仕事がありませんでした。女性たちはお嫁になかなか行けず、東京にお手伝いさん、当時は女中さんですが、として出てくる。田中正造はそんな女性たちを福田英子という友人に送っていたという箇所が伝記のなかにあり、「ああ、これだ」と思いました。それでホンができました。田中正さんの演出は素晴らしい、久々に脚本を書いてよかったです。NHKはやはり素晴らしいとあらためて思います。



上田崇順 このたびは名誉な賞をいただきましたありがとうございます。私はアナウンサーで、震災から1年経ったときにこの企画を動かしました。作業員の方に直接話を聞いたら、映像では伝わらない本音がき

つと聞けるのではないかと思っていました。先ほど石井さんからどうやって話が聞けるようになったのか、音声でなんとか出して行ければと思います。毎日放送にはテレビもありますので先日この内容で15分ほどやりました。テレビも一緒にやろうと声をかけてきています。これから頑張っていこうと思います。

つと聞けるのではないかと思っていました。先ほど石井さんからどうやって話が聞けるようになったのか、音声でなんとか出して行ければと思います。毎日放送にはテレビもありますので先日この内容で15分ほどやりました。テレビも一緒にやろうと声をかけてきています。これから頑張っていこうと思います。

たちが知ることでできない現場がどうなっているのか、音声でなんとか出して行ければと思います。毎日放送にはテレビもありますので先日この内容で15分ほどやりました。テレビも一緒にやろうと声をかけてきています。これから頑張っていこうと思います。



村上徹夫 今回は本当にありがとうございました。企画賞と、つまり企画が認められましたので、どんな経緯でこの企画が出来たかを話します。基本的には外国人が大量に鍋釜を買いに来ているような時期だから、こんな番組は作れないかと総合演出の野村さんに持ちかけたところ「V.O.U.は何しに日本へ？」の企画書になつて出てきました。しかしこれが本当に番組になるのか本当に不安で、よりあえずインタビューだけやってみようと思っただけで、土曜日の面白い外国人がたくさんいます。土曜日の昼のテレビ東京ですから視聴率は非常に低い、予算は少ないというところから工夫して工夫してあの番組の形が出来上がりました。1年ちょっとで深夜のレギュラーになり、いま月曜の18時57分から約1時間のゴールデンアワーの番組になりました。

たちが知ることでできない現場がどうなっているのか、音声でなんとか出して行ければと思います。毎日放送にはテレビもありますので先日この内容で15分ほどやりました。テレビも一緒にやろうと声をかけてきています。これから頑張っていこうと思います。

ちよつと前にスタッフで教えた人が空港でインタビューした人は1万7千人になりました。もうそろそろ2万人に達しているのではないかと思います。確かに優れた企画から始まった番組ですが長続きしているのは現場のディレクターのおかげです。この番組では事前の打ち合わせ、会議はなく、ほとんど現場のアドリブで撮っています。それをまとめる編集の作業も大変です。それを日々汗を流しながらやってくれているディレクターたちに感謝しています。昨日の金曜にも成田に行きました。土、日は成田の取材は許されないので月曜からずつと、東京オリンピックまで頑張るつもりです。よろしくお願いします。



伊藤清隆 今日はいい賞をいただきましたありがとうございます。受賞の連絡をいただいたときに耳を疑いました。放送人グランプリは2005年「あなたまた戦争ですよ」というドキュメンタリーで山形放送は受賞していますので、この賞の存在、重みは頭にはありませんが、もう9年前のこと、しかもその番組は民教協スペシャルの大型番組でした。今回は二人の離島のナースに密着した30分のヒューマンドキュメントで

す。放送人の会員で山形に住んでいる大類啓さんから推薦すると言われ、有難いなあと思っておりますが、まさか受賞するとは思っておりませんでした。グランプリを受賞した「時は立ちどまらない」はうちで家族と涙をこらえながら見ました。その番組の録りたる制作スタッフの方々と一緒に席にいらるとどんな気持ちをするのだろうと思っておりました。放送界の大御所の方々の目線が私どものような地方の小さい番組にも注がれていることにあらためて驚き、感謝しております。震災からの復興原発、沖縄、集団的自衛などの議論は沸騰しておりますが、一方過疎は静かに進んでいます。私たちが取材した飛島も240人の人口が1年で20人ほど減っています。お医者さんは常勤の医師が昨春秋、8年5カ月ぶりに着任しました。2人の看護士さんも退任され新しい人に引き継がれています。島の人にはまず一安心というところだと思いますが、医師との信頼関係はまだじっくり行く所までには至っていない現実もあります。過疎は音もなく進み、日々ニュースになることはありませんが、地方に住む放送人はしっかりと現実をみつめて一過性でない取り組みで伝えて行きたいと思っております。素晴らしい賞をいただきありがとうございます。

倉邊治雄 賞をいただき本当にありがとうございます。同時にまた事故は終息していない、また13万人を越える人が

避難を続けている、そして関連死と呼んでいます。震災で亡くなった方を関連して亡



くなつた方の数が越えている、ことなどを思い、重い気持ちです。私は科学者として、これまでに3回日本は終わったと思つた瞬間があります。1回目は3月14日の午前11時01分、3号機が爆発しました。あのときはスタジオでライブで映像をみていたのですが、これで日本は終わったと思つた。その夜、2号機が空焚きになりました。この時も「終わった」と思い、次の3月15日午前6時過ぎ、4号機の使用済み燃料が爆発しました。使用済み燃料には核の容器がありません。もうこれで日本は終わったと思つた。私は先ほど紹介がありました。目が黒いうちはこの問題に関しては決してどんな小さなことでも見逃さないぞと思つています。いま私がほぼ確信していることが3つあります。一つは東電福島原発事故は終息しない。終息しない前提でいま考えられています。二つめですが、おそらく日本は原発を再稼働するでしょう。私がほぼ確信しているのは、次にまた事故が起るだろうということ。そして3つめ、日本は

やがて核兵器の製造にのめりこんで行くだろう。いずれも明るい見通しではなく、深刻な警備気を持ち込んでしましますが、これが現実だと私は考えています。さて、私たちは何が出来るのか。ジャーナリストとして放送人として何が出来るかを考えなければならぬと思います。

先ほど広島の素晴らしい番組の表彰がありました。考えてもみてください。被爆の経験は広島、長崎、チェルノブイリとありますが、せいぜい60数年。2世代です。いま私は放射線について取材していますが一般のウラン鉱脈と一緒になるのに一万年、影響がなくなるまで10万年かかります。3300世代です。この年月を経ないと近くことができず、そんな現実を私たちは身近にかかえてしまっている。そんな深刻な現実を一度考えてみてください。



宮崎賢 このたびは放送人の会の名たる賞をいただきありがとうございます。私は今野勉さんの「遠くへ行きたい」という番組をみてこの世界に入りたいたいと思つた。こんなものが描けたらいいなあ、と思つたのが映像の世界に入った原点です。ハンセン病の島長島には愛生園と邑久光明

園の二つの国立療養所があります。長島愛生園はみなさんご存知で小川正子さんの

「小島の春」で有名です。非常に過酷な隔離の中で人権を踏みにじられ、強制労働をしながら故郷には帰れず、家族の絆を断たれてきました。長島の自治会の願いは長島に橋をかけて欲しい、島流しの生活を一日も早く終わらせて欲しい、というものでした。当時厚生大臣の森下元治さんが視察に来たとき、架橋委員長の香川一郎さんが大臣に「島流しの生活を一日も早く終わらせて欲しい。助けてください」と訴えました。

私の胸にぐざりと刺さりました。これは伝えなければと思つて社に帰るとテイリーのニュースに「50秒でいいよ」と言われました。これはダメだ、ドキュメンタリーにしようと思つた。記者に言うところを渡してくれて「いいよ」と言う。2、3回撮ったとき記者が「あのテープはどうした。そうか。ドキュメンタリーやろう」と言い、始まりました。今日はその架橋運動をやっていた長島自治会の会長さんが見えです。

「半世紀を経てやっと島流しの生活から解放され、長島に橋が架かりました。らい予防法という人権侵害の法律がある。長島の橋は人間回復の橋なのだ」とスローガンを患者は掲げましたが、何故なのかわかりませんか」と私は問われました。「それはメディアがハンセン病問題に全く関心をもっていないからだ、だから『人間回復』というスローガンにしたのだ。それでようやくメディアがこれはどうということだ」と少しず

つハンセン病問題をとりあげるようになってきた」とのことでした。

確かにそうなのです。日本のジャーナリズムはハンセン病に全く無関心でした。私も加害者の一人だったと思いますが、やはりハンセン病のことを伝えて行きたい。ずっと伝えて行きたいと思えます。らい予防法廃止問題で東京に来て、厚生大臣室の前で菅さんが見直しの遅れを謝罪したとき、

東京の記者たちの多くが「ハンセン病って何だ？」と言っている。非常にショックを受けました。東京の記者は何故この問題を引きとらえていないのか。やはり私はもっと伝えなければと強く思いました。山陽放送でも「宮崎、ハンセン病問題は終わったよ」と言われました。私は絶対クビを縦に振りませんでした。終わっていない、まだ始まりだ、年に2、3本のニュース特集でいいから撮って行こう、と今日に至

っています。先日も特集を作りました。人権闘争に命をかけ、生涯をかけてきた人の思いを伝えたいと、6分の映像にしてみました。この問題は短期間で終わる問題ではありません。私がこのテーマを始めたのは27歳で、定年まで撮り続け、まだやりたいことが少しあるのでハンセン病問題をやらせてもらえるならと会社に残りました。これからも65歳までは報道現場にいて、伝えて行くつもりです。

今日、不自由な体をおして長島から来ていただいた愛生園入所者自治会会長中尾さんにマイクをゆずります。

中尾伸治 受養者の皆さんおめでとうございませう。私は愛生園に入ってから64年になります。14歳のとき入りました。宮崎さんとかかわりはそのうちの半分になります。最初宮崎さんは震えながら愛生園に入ってきました。先ほど話してそれは新婚の



頃で、家に帰ったら、奥さんに「手を洗ってから家に入りなさい」と言われたそうです。そのころ厳しく続いており、現在も続いています。いま病気はほとんどの方が治りました。愛生園に居る人の平均年齢は84歳です。248名がいます。宮崎さんが来られたころは1500名くらいいました。多くの方が家に帰省することもなく、社会に復帰することもなく、長島で生涯を閉じました。その一部始終を宮崎さんは撮ってくれました。これからもまだまだ啓発事業を続

けて行きます。現在愛生園と邑久光明園の二つでハンセン病の島長島を世界遺産に登録する運動をすすめています。動きだしたら皆さんのご協力をお願いします。このように世界遺産のことも言えるようになったのはいろんな報道、特に山陽放送の報道のおかげです。最初のころは入所者は顔を写されるのが嫌だ、背中でも嫌だ、といておりましたが、個人個人と話し、了解を得て撮影し、放送されました。すると家族から抗議があり、山陽放送の報道局長に謝罪して貰ったこともありました。そんないろんなことがあつての今日のお祝いだと思います。報道はいろいろ難しいとおもいますがハンセン病を扱っては困ります。今後ともよろしくお願ひします。今日のグランプリの授賞式おめでとうございませう。

懇親会

スナック





榎本恒幸毎日放送専務



「Youは何しに日本へ？」のディレクター



懇親会

懇親会の開会挨拶 石橋冠



今日は受賞なさった方どうもおめでと

ございます。審査にあられた皆さんお疲れ様でした。僕にとつて一番好きな日は実は今日で、この会は欠かさず来なくてはならないなと思います。堀川とんこうさんの訥々とした語りから始まり、皆さまが現場からの声を凄くホンネで語ってくれるのは「放送人でよかったな」と思った時間でありました。今日はなかなか多岐にわたり、日本中の問題を全部学んだような気がしま

す。私は副会長などと呼ばれていますが、実は新人募集係りなのです。放送人の会はこうして放送の現場をバックアップして行くのが使命で、いろんなことをやっています。今日「参会の方もとんこう放送人の会にご入会いただけたらな」と思っています。乾杯の発声 堀川とんこう

無事に贈賞式が終わりほっとしております。僕は流暢に喋っているつもりですが(笑い)「訥々」と毎年言われる。

どなたか表彰状の文面に言及なさった方がありましたが、とても嬉しかったです。

当会が差し上げている表彰状は非常に字数が多くて普通なら「優秀な成績を収めたのでこれを賞します」とか言っただけで内容がありません。われわれは是非内容のある表彰状を作りたいと文面に苦勞しています。字数が多くて読むのが大変で、今野さんは大変でしたが、内容のある表彰状で、それに触れてくださった方があってとても嬉しかったです。

では皆様の放送人としてのますますのご活躍と放送人の会の発展を祈念して乾杯します。

乾杯!

鈴木典之(司会) このパーティーは放送人の会員が率直に受賞者の皆さんと話し、交流をしながら、会員に誘おうという下心があります。式次第は一切ありません。時々思いついて指名しますのでその時は是非ひと言一言喋ってください。

村上徹夫 ここでは「Youは何しに日本へ？」のディレクターに私がインタビューします。これまで2万くらいのインタビューをやりました。これの中で密着取材をやってきました。では1日の成田でのおよその動きを説明してもらいます。

A 成田空港では朝の9時から夕方5時までが取材時間です。朝6時くらいに起きて成田に向かいます。9時からスタートですが到着機の便名をみて、狙える便をじっ

と待ちます。到着して客が降りてきて、これはと思う人にインタビュー。これを1日中繰り返しています。途中面白そうな人がいたら「ついてつてもいいですか?」と聞き、OKなら一緒に出て行きます。そんな毎日です。

村上 一番印象に残ったYouは?

B いろいろありますが、戦国時代の日本に帰ろうとやってきたポーランド人で、いろんなところに行つて合戦場の作図をしました。長野から滋賀、岐阜、三重とまわりました。

C 僕が最初に成田に行ったとき出会ったインドネシアからお母さんと呼んだ留学生です。最初のことでは番組のやり方が分からないまま、電話で連絡したら彼の電話は料金が払われていなくて連絡が出来ず、住所は分かっていたので彼の母校である山形大学へ行き、住所のマシソンを尋ね当ててやっと会えました

A ヒッチハイクで日本の温泉をめぐるという外国人で、成田空港から箱根、浜松、最終的には別府を目指していたのが大阪で終わりました。嬉しかったのはこれを見て妻と子供が笑ってくれたことです。村上 取材していて一番苦しい事は?

村上 嬉しいことは?

C 成田にもう50回くらい行っています。顔なじみになった荷物預かりのおじさ

んとかKIOSKのおばさんが「今日はいいのが撮れた?」など声を掛けられるんです。番組が見られるようになって日本人のかたにも「番組、見てるよ」と言っていただけです。僕は裏方ですが、画面に出ている人とは違う喜びがあります。

村上 こんなディレクター人が毎日成田に行つて月曜18時57分からの1時間を作っています。みなさんご覚になつて「面白いよ」とファンをひろげてください。お願いします。

前川(司会) 日韓中フォーラムの無錫で青山と思つたら青森だった、という話ですが、あんなときは「これから青森行きます」と了解をとつてから行くの?

村上 基本的にはディレクターが面白いと思うかどうかで、予算のある限りディレクターの判断で行きます。これでストーリーが出来たなと思えたら取材は終わりです。

前川 今日いらつしやつた新入会員で、まず毎日放送の榎本恒幸さん。

榎本恒幸 半年ほど前、前川さんが日韓中フォーラムの協賛金の勧誘にいらつしやつたとき、ついでというか「榎本くん、きみ入らんか」と言われました。それに乗せられた次第です。私は編成者で、皆様のよろしくに華やかな作品を不示すことはできません。しかし番組に対する思いはそれなりに持っているつもりです。末席ではございますが今後よろしく願います。

以下略

放送人の会・総会

一般社団法人・放送人の会の社員総会は5月17日(土)午後、理事会に引き続き、青山荘で行われた。放送人の会の会員数は246(決議権のない賛助会員を除く)。委任状117、出席者30、計147で会員数の過半数。総会は成立した。

総会の議事はまず今野勉会長の活動状況報告からで、以下の報告がなされた。

「ご存知のように今年には日韓中テレビ制作者フォーラム第14回、日本が当番国で横浜開催です。先月2日間にわたって横浜で準備会議を行いました。韓国から2人、中国から2人担当者が来まして、横浜市の担当局、文化観光局にも挨拶し、無事終了しました。フォーラムの日程は9月15日から18日までの4日間、会場はシンポジアという国際会議場です。テーマは「出会い、サブテーマは「都市、文化そして人間」です。今年から横浜、韓国の光州、中国の泉州の3都市が文化都市として交流することが始まりました。これは日韓中3カ国の協定で始まったものですが、それをふまえて会場を横浜に設定したのでサブテーマに「都市」を入れました。

今回は得られるべき助成金が得られないこともあって予算が非常に逼迫しています。これが悩みの種で、いかにして横浜大会を乗り切るか、これから考えなければならなりません。皆さんにもボランティア的にいろいろな仕事をお願いすると思います。これ

から個々にお願ひすることになります。よろしくお願ひします。」

これを補足して渡辺事業委員長が横浜大会の進捗状況と各事業について報告。ついで、前川総務委員長から予算・決算の報告があり、質疑のあと承認された。

4、5月の入、退会申し込みは、入会が渡辺浩平、南謙、訓嗣美、川平朝清、北林由孝、佐野有利、藤村忠英、玉城朋彦、北川祐美香、若松史樹の10名、退会が赤井美、兼盛正英の2名でいずれも承認された。

から、放送人の会へ5千万円の寄付の申し出があるとの報告に、議場から「承認でなく賞賛！」の声があり一同大拍手。このお金の運用はいずれ委員会ができて決められる。総会は無事終了。苦しい予算編成をのりきった幹部役員の方を多量とした。

2014年(平成26年度)予算案

経常増減の部	
1、経常収益	
受取り入会金	150,000
受取り年会費	2,400,000
受取り補助金・共同事業等	2,000,000
イベント収入	150,000
特別事業助成金等 (日韓中テレビ制作者フォーラム)	18,900,000
経常収支計	23,600,000
2、経常費用	
事業費 21,800,000	
名作の舞台裏	610,000
人気番組メモリー	240,000
放送人の世界	100,000
ドキュメンタリー・ワールド	50,000
放送人の証言	300,000
放送人グランプリ	500,000
ラジオ・プロジェクト	30,000
放送人句会	70,000
日韓中テレビ制作者フォーラム	19,900,000
管理費	3,700,000
給料手当	1,200,000
諸謝金	300,000
事務所賃貸料	720,000
通信費	100,000
旅費交通費	200,000
会議費	100,000
印刷費	200,000
広告宣伝費(会報作成・ネット)	320,000
事務用品費	50,000
消耗品費	30,000
交際費	50,000
支払手数料	30,000
支払報酬	400,000
経常費用計	25,500,000
当期経常増減額	△ 1,900,000
前年度末繰越金	1,437,103
正味財産残高見込み	△ 462,897

平成25年度決算・正味財産増減計算書

一般正味財産増減の部	
経常増減の部	
1、経常収益	
受取り入会金	5,000
受取り年会費	2,382,000
受取り補助金等	2,200,000
イベント収入	310,000
雑損益(受取利息)	111
経常利益計	4,897,111
2、経常費用	
事業費 2,484,906	
名作の舞台裏	641,889
人気番組メモリー	242,740
放送人の世界	105,040
ドキュメンタリー・ワールド	22,274
放送人の証言	433,180
放送人グランプリ	566,540
ラジオ部会	5,000
放送人句会	105,233
日韓中フォーラム	363,010
管理費	4,880,636
給料手当	1,429,030
諸謝金	467,000
事務所賃貸料	353,424
通信費	319,274
旅費交通費	257,380
会議費	373,617
印刷費	418,904
広告宣伝費	382,802
事務用品費	91,450
消耗品費	159,672
交際費	45,000
支払手数料	24,863
支払報酬	558,220
経常費用計	7,365,542
当期経常増減額	2,468,431
経常外増減の部	
1、経常外収益	
受取寄付金	3,905,534
経常外収益計	3,905,534
当期経常外増減額	1,437,103
一般正味財産期末残高	1,437,103
正味財産期末残高	1,437,103

新入会員歓迎パーティー

3月29日(土) 千代田区紀尾井町千代田放送会館の1階ラウンジで放送人の会新入会員の歓迎パーティーが開かれた。司会は石橋冠、前川英樹の2氏。

今野勉会長 お集まりいただきありがとうございます。会費と引き換えに名簿をお渡ししましたが、去年から今年にかけて41人の新入会員があり、今日理事会があつてその席でまた6人入り、会は勢いづいております。

どうして会員を二所懸命集めるようになったかといいますが、有体に言えば、私どもはかなり高齢化し、新陳代謝をしなければならぬ。世代交代をしなければならぬ。正直にそう思っています。

お送りしたパンフレットに放送人の会がやっている事業のことが書いてあり、それをするには勿論大事なことです。その事業を後に引き継ぐことはもつと大事なことです。そのために、この会に入って貰う



松尾羊一氏



関佳史氏



佐藤敦氏



和崎信哉氏



岡崎真紀子氏

べきひとにはちゃんと入っていただこうと決意しました。

昨年12月でまる16年、いま17年目になります。大した歴史ではありませんが、その中で積み重ねてきた実績は放送界以外でも認められてきており、そのせいもあつて面白そうだからと入って頂けたのだと思います。

われわれの世代がだんだん後退するにつれて皆さんに前進していただきたい。

16年前は1997年ですが、その4年前テレビ界は一大スキャンダルに見舞われ、NHKの「ムスタング」のやらせ問題、民放のやらせ問題があり、活字系のマスコミからテレビの制作者はひどく叩かれました。そのとき、取材された人は、私もそうすがちやんと答えられませんでした。制作者の側にはもどかしさがあつて、我々の側からもつと言つべきことがあるのではないかとそれぞれ孤立しているのではなく、共通の

場で話し合う必要がある、というのが設立の動機で、4年間の準備期間があつて会が発足しました。

今年一般社団法人になってからはもう少し広げて、テレビメディアを愛する人研究する人も一緒にやることになりました。

北海道大学には東アジア研究センターがあり、これは放送人の会の日韓中テレビ制作者フォーラムでやっていることと同じ研究をやっています。その教授と助教が会員になることが先ほどの理事会で承認されました。そんな形で確実に会は広がっています。

会が新しく歩み始めている。そのことを新しい会員の方は背負っていただきたい。ということでのこの会を催しました。

乾杯

放送人の会の理事自己紹介

(名前 出身団体、担当などに省略)
石橋冠 (副会長、堀川とんこう (放送人グランプリ) 担当)、**工藤英博** (放送人の証言) 担当、**曾根英二** (元山陽放送、

加藤浩紀 (元NHK、放送人の証言) 担当、**加賀美幸子**、**山路孝子** (人気番組メモリー) 担当、**櫻部紀生** (放送人の証言) 担当、**河野尚行** (監事)、**小池勝次郎** (元NTV)、**菅野高至** (元NHK)、**荻野肇人** (元YTV)、**武本宏一** (元TBS、テレビマンユニオン、放送人の証言) 担当、**西川章** (元TBS、「放送人句会」世話人)、**鈴木典之** (ドキュメンタリーワールド) 担当、**会報編集委員**、**伊藤雅浩** (広報委員長、会報編集長)、**田中秋夫** (元文化放送、「ラジオプロジェクト」担当)、**長沼士朗** (元NHK、「日韓中テレビ制作者フォーラム」担当)、**北村充史** (事務局長、元NHK、WOWOW)、**前川英樹** (総務委員長、元TBS)、**松尾羊一** (私は昭和5年生まれ、84歳、毎日新聞にバカバカしい話を書いております。一体俺はなんだろうか。昭和28年に文化放送に入り、それからしばらくしてもの書き始めました。すると編集者のひとが実名じゃやばいよ、とペンネームで書くことになりました。松尾というのには芸名であります。今日、理事会をさぼったのは、「調査情報」の編集長市川哲夫さんからラジオ

のことを書けと言われたからです。ラジオの何を書くのかというと、6ページあるから、NHKのそもそもから始まっている。掌編ラジオとかいろんなことをやっているラジオまで展望しろ、というのです。それでNHKのことをずっと調べていますと、

いまNHKの朝ドラのヒロインであるおばさまは、私が中学の2年生の頃、たしか夕方だったと記憶するのですが、ニュースか子どもニュースで出ていた村岡花子さんです。村岡花子といえば柳原白蓮の友達で、白蓮といえば、宮崎滔天の長男の宮崎龍介に、昭和28年か29年、ダンスを持って池袋の奥に会いに行つた。私はそのときまで白蓮が炭鉱王のところに行く嫁に行き、その後東大の新人会の龍介と一緒にいたことは知らなかった。その話を聞くと面白くて、録音するのを忘れた。柳原白蓮は名前を変えて仲間由紀恵がやっています。そんな次第で、昔の話と今の話がごちゃごちゃになって、俺は放送屋なのか、物書きなのか、あるいは単なる野次馬なのかよくわからない84歳です。後何年生きられるか、最近の平均余命では90歳とか。もうちょ

つと頑張ろうかと思う昨今です。どうぞ今日はお楽しみください。

事務局長、佐藤真美子さん、須藤真美子さん紹介。

新入会員の自己紹介

関佳史(テレビ神奈川編成局長) 昨年10

月、無錫の日韓中テレビ制作者フォーラムに参加しましたが、今年は横浜なので、旅行代理店みたいなお手伝いをしています。

佐藤敏(NTV制作局P) 日本テレビは

いろいろお騒がせしておりますが、雨宮望さんに薦められて入会しました。日本テレビに20年、その前に日活にいました。ほんとうの放送人なのかとは思いましたが、よろしく願っています。

小川治(Prox社長) ずっとドラマを

うやうややってきて、石橋監製、堀川監督にお世話になりましたが、いまは情報番組、他局の番組も作っています。WOWOWさんにもお世話になっていきます。若輩ですがよろしく。

和崎信哉(WOWOW社長) 和崎です。私

は放送人の会がやや苦手でした。というのは大先輩の石橋監製はじめ、河野尚行先輩とかほとんど怒られそうな先輩ばかりで、逃げておりました。ところが、わが社のエースプロデューサー岡野が入会することになりました。この会はうるさい人が多いからと私が付き添いで入会しました。

岡野真子(WOWOW制作局P) 岡野で

す。ちよつと場違いなところにいる気がしますが。ただ体力はあるので、皆さんのお役にたつよう頑張りたいと思います。

吉村兼介(フリーカメラマン) 初めての

方もいらつしやいます。36年8か月、ずっとNHKにおりまして、教育テレビとドキュメンタリーをやっておりました。不思議な御縁で「放送人の証言」を撮ることになり、泥沼にはまりました。若くはないのですがまだしばらくはやりたいと思います。石橋さん、来月早々重田さんを撮りますよ。

▼出席予定だった川喜田さんは今朝ヘルニ

ヤで動けなくなつたそうです。

兼谷弘美(テレビ朝日サービス事業局長) テレビ朝日で放送した番組を地方局やCS、

B.S.海外に販売する部署で働いています。

▼寺島隆幸(テレコムスタッフ社長) 欠席

門倉昌彦(フリー・セット・デザイナー) 石橋社ちゃんと学校から日本テレビまでずっと一緒にやってきました。人前で喋るのが大嫌いで、喋らなくても出来るセットデザイナーの仕事をしてきました。

牧ノ瀬真子(NHKワールド番組契約D)

初めての方と毎年1回お目にかかる方があります。私は放送人の会がオーガナイズしているテレビ制作者フォーラムに毎年お邪魔して、日本、韓国、中国でお世話になっていきます。2003年、フォーラムのための番組をNHKで作ったことで皆さまとお知り合いになることができました。毎年お目にかかつていて、いつかこの会に入りたいと思つていたので、やっとその機会に恵まれました。お役にたつことがあれば何でもやります。

大池雅光(名古屋テレビ番組P) 今日雲

の上の偉い人はかりでビビっています。昨年は「名古屋行き最終列車」というドラマで賞が取れて、ありがとうございます。われわれ地方局がドラマを撮ろうとすると



中尾幸男氏



豊田由紀子氏



黒沢淳氏



吉田賢策氏



志村一隆氏

いろいろな困難があります。賞が取れたので2本目が撮れましたが、これも数字が良く3本目が撮れそうです。名古屋テレビのドラマをみたら、賞へプッシュしてください。そうするとまた撮れます。ちなみに大赤字を出して厳重注意を受けたばかりです。

逸見京子 (オフィス・ヘンミ、CAL) 逸見の名前をご存知の先輩は亡くなった伯父をご存知なのだと思います。私は若輩で走れるだけは走れると思いますので使ってください。

本木敦子 (下キュメンタリージャパン代表取締役) 物凄い先輩方の前で緊張しております。私は電通にいたことがあり、その後電通とNHKの合併の総合ビジョンに行き、そこで和崎さんと一緒にいたことがあります。その後下キュメンタリージャパンで20何年になります。会社の名前がどんな逆風が吹いても下キュメンタリーを作り続けると宣言していますので、NHK、WOWOW、民放各社にお世話になっています。高円寺でドキュメンタリー映画祭もやっています。粘り強く頑張りたいと思います。

西澤彦 (NTVアックスオン) 実力ではな



西村与志木氏



牧ノ瀬恵子氏



市川哲夫氏



元木敦子氏



土屋敏男氏

く体格で仕事をとっているとかが言われて今日までやってきました。直近では「明日ママがいない」というドラマで物議をかもしました。こちらの会報で「覚悟が足りない」とご指摘をうけ、これから覚悟をもって作るつもりです。

市川哲夫 (TBS「調査情報」編集長) TBSの先輩が沢山いらっしやあって、いつまでも若造扱いされるのは嫌だなと思って遠慮していたのですが、私の今の職場を世話して下さった前川さん(前のメディア総研の社長)に浮世の義理が欠かせなくて参加しました。皆さんの中ではまた若輩ですが、今年65歳年金受給者の年齢になりました。仕事は幸い恵まれて、放送界の良心と言われる「TBS調査情報」の編集長を7年続けています。その縁で、松尾羊一さん、今野勉さんなど、名だたる執筆者の方と知り合いました。放送界の現状を半大笑い、世の中がおかしくなったら、「調査情報」を皆に炭鉱のカナリヤのように、警鐘を鳴らそうと思っています。TBSの先輩の村木良彦さんに「僕のいるところがテレビジョンだ」という言葉があります。いま番組に

直接かわってはいませんが、その精神で放送に関わって行きたいと思っています。

前川英樹 ちよつと補足します。市川くんが「調査情報」の編集長になるには確かに私が強く働きかけました。その縁もあって、赤坂に行くときメディア総研の「調査情報」の編集部に立ち寄り、日暮れになると彼を誘って酒を飲む、という付き合いが続いています。

司会の石橋さんから「港町純情シネマ」のことが出ましたが、その頃石橋さんは「池中玄太80キロ」をやっていて、西田敏行がっつばつてた。TBSはなかなかスケジュール通り進まなくて……

石橋 ええ、ひどい目にありました。

前川 あの番組は私もやっていましたが、スケジュールを守らない責任はもつばら高橋二郎にあり、私と市川はきちんとスケジュールとおりに西田さんを渡した。そんなわけで「純情シネマ」の番組名が出たわけです。

黒沢淳 (テレバックP) ドラマを作り続けています。学生の時みて感動した記憶があるような大御所の方はかなり、緊張してい

ます。役に立つことがあれば何でもやります。よろしく願います。

菅野真樹 (元NTV、スタジオ・ジブリ、現生社社長) テレビ局に入って最初に社会情報局で「追跡」という番組に入りました。その後アニメやCGののめり込みました。現在はそのCGのアニメをやる零細企業のおヤジをやっています。同時に5年前から大学の教員をやっています。

西村与志木 (NHKエンタープライズEP) 放送人の会へは講師に呼んで貰ったりしたのに入会せず、ちよつと距離を置いておりましたら石橋冠さんに「何やってるんだ、入れ」と言われて、断れませんでした。長い間どうも失礼しました。冠さんとはわれわれが「外プロ」と呼ぶ外部のプロダクションと仕事を始める最初の頃、「新宿鮫」という大傑作のシリーズの仕事をしよにしました。私はNHKの新人で高知放送局に赴任したのですが、そのとき河野尚行さんがデスクで、一生私のデスクで上司です。放送人の会にはこれまでいろんな方のお世話になってきました。これからよろしく願います。

竹中一夫（BSAT特別経営主幹）私もし川さんと同じで65になったばかりです。NHKで科学番組、特に自然科学や医学の番組をやつてきて、いまは何故かメディアの仕事で、前川さんと同様、衛星放送やデジタル化の事をやっています。したがってぼくはNHKより、民放やメーカーなどにネットワークがあるのが自慢で、ついでに電が関のできの悪い皆さんとおつきあいをせざるを得ないといった仕事をしていきます。BSATというのはBSのすべての放送を出している衛星で、独占企業です。NHKも民放もWOWOWもやっていますが、みんな株主なので大きな顔はできません。前川さんに是非と言われて入会したのですが、NHKの懐かしい先輩にも会えて嬉しく思っています。



近藤邦勝氏

の人生の記録をビデオにしてそのひとに贈るという仕事をしています。いまちょうど、戦後からの会社と個人の歴史が代替わりする時期らしく、自分のDNAをビデオに残したいという希望は多く、来年度も160本、仕事が決まっています。最近パーティーに出て自分が平均年齢より下だというのは本当に珍しい。この会はそのことでわくわくします。いまの会社を作った理由はいろいろありますが、ぼくの友人で「元気が出るテレビ」から一緒にやっていたバラエティーのフリーのディレクターが自殺しました。長年バラエティーのDをやっていますと周りの年齢が下がってきます。1度はスーパーバイザーとか総合演出とかになるのですが、その後使いつらいつら仕事が多くなる。そんな人たちがテレビの仕事だけでは吸収できない。だから50歳以上限定でDを集めて仕事をする形を作りました。私が長年尊敬してきた先輩にも声をかけたのですが、断られました。断る理由は「もう僕は粘れなくなった。粘れないともうディレクターじゃない」と。そのことも自分に課しながらやってみようと思います。



西憲彦氏

石橋 「ツッチー」と呼んでやってくたさい。次は吉田賢策さん。テレビ朝日のニュースステーションの創立に関わった方で、現東北朝日プロダクションの社長です。吉田賢策（テレビ朝日、東日本放送取締役）いや、その仕事は終わりました。戻ってまいりました。テレビ朝日で制作、報道、編成です。今日プロダクションの方と一緒に仕事をしたかたど多数お目にかかりました。ほんとよかったです。仙台の出身なので、楽天の球団が出来たときに東日本放送へ行ったのですが、楽天の優勝の直前にこちらに戻ってきて非常に悔しい思いをしました。楽天優勝の時は自宅でやけ酒を飲んでぶっ倒れました。



河野尚行氏

大野秀樹氏

石橋 次はTBSですつとドラマの演出をなさっていたテレバック代表取締役の近藤さん。近藤邦勝（テレバック代表取締役、ドラマの演出をしていたのは46歳までです。会長にこまるわけではないですが、学生のころ今野さんの「七人の刑事」の「二人だけの銀座」を見て、「あ、この会社へ行ってみよう」と決め、この世界へ来ました。ここに来てみると皆さん先輩で、WOWOWの岡野さんだつてテレバックの大先輩です。黒次さんも大先輩です。何でこの会に入ったかという、渋谷区から「補助金が出るから高齢者はインフルエンザの注射をするように」と手紙がきて、隣の長沢病院へ行くと大山勝美さんが何故かぶらつと入ってきて、「おお、コンちゃん、いま放送人の会が会員を募集しているから、きみ、入りたまえ」と言われ、「はあっ」と硬直していると「僕が推薦しておくからダイジョーブ」。前川さんにも推薦していただいていたことになりまし。



加藤滋紀氏

隈部紀生氏

参会者の一部の方の写真を順不同に掲載しました

第37回 名作の舞台裏

「ミエルヒ」(北海道テレビ:2009年12月19日放送)

日時:2014年3月21日(金・祝日)

13時半~16時半

場所:横浜情文ホール

ゲスト:安田 顕(出演) 青木豪(脚本)

藤村忠壽(演出) 崎野雅道(企画)

司会:渡辺純史(放送人の念)

北海道テレビ放送は1996年から毎年1回「HTBスペシャルドラマ」を放送。芸術祭賞、ギャラクシー賞などを受賞しているが、「ミエルヒ」はその中の作品で、芸術祭優秀賞、ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞を受賞した。

制作スタッフはHTBのバラエティー「水曜どうでしょう」のメンバー。安田顕、大泉洋も「水曜どうでしょう」のレギュラー出演者。

▼ドラマのオープニングは石狩川を舟で進む映像である。水量豊かな真つ黒な大河で川の向こうに大きな工場がみえる。

崎野 石狩川の向こうのコンクリートの壁が製紙工場です。12号線にかかる美しい橋



崎野雅道氏

のこちら側、疎外されている空間から世の中をみているドラマです。

江別出身の女の子に案内して貰いました。明治10年代に鉄道ができ、石狩川の水運とあわせて、小樽への交通の要衝として発展した街です。案内されて行く漁協があり、石狩川でヤツメウナギを捕っている。河川敷において行くと藁が茂り、番小屋があり、ヤツメウナギを捕る「コウ(巻)」があり、木舟がある。ドラマではそのまま使いました。

藤村 青木さんが「父と子」のドラマのシノプを書いてきた。家を出て行った子が何かの理由で戻ってくる。青木さんは「猿のゆりかご」(舞台劇・06年岸田戯曲賞最終候補作)を見てからのつきあい。暗いのがよかった。

青木 舞台劇のほかにラジオドラマも書いて



青木豪氏

ていたのですが、「ミエルヒ」はのつびきならぬ頼みで……さびれた街に興味があった現場に行きました。川と王子製紙の工場をみて、いいねえ、と。

崎野 根岸季衣の役のモデルがいました。ご主人を亡くして、青木さんは「使いません」と言いましたが、子どもを亡くした話にしてとんとん使った。

▼泉谷しげるが根岸季衣と同じようにヤツメウナギの漁をしている。不漁続いた。泉谷は居酒屋のママの風吹じゅんと結婚する予定で、家の改造を計画している。そこに安田顕が帰ってくる。

渡辺 泉谷しげるがいいですね。時々乱暴すぎるイメージで浮くことがあるが、ここですっかりおさまっている。

藤村 浅草で飲んでいるから来いというの



藤村忠壽氏

で行くと、青木さんがいて、安田、大泉は近すぎてイメージにならないとか言いながらキャストイングをはじめ、ドラマのイメージを固めた。その中で風吹じゅんはすぐ決まった。

▼安田はカメラマンだが戦場で目を負傷。カメラマンができなくなった。地元で彼に気がある娘がいる。

崎野 花屋の娘の役は青木さんの劇団の団員です。名前は萩原リエ。青木さんもシャッター商店街に住んでいたことがある。

渡辺 花屋からのあの距離を歩く間で泣ける。無理がない。短いカットコイコイをやる監督のセンスがわかる。切り返しの画は撮っているのだが使わないという抑制がいい。

崎野 4Kのカメラが劇場用には使えません。

時間はあるので東京でやらないことをやりたかった。カメラマンはいつもバラエティを撮っている、なかなかの腕前です。江別に決まったときは怒っていた。通り過ぎる街で心にひっかからない、と。しかし妙に居心地よかった。何か楽しい。

藤村 崎野と地域ドラマを作り始めて、近くで撮ってきた。地域への気がねや、泥臭いにおいなどは10年作つてきて解決したと思っている。地域は近くのどこかで、特定の地名は出さないように思ってたが、救急車に「中江別」と出たのはしょうがない。

役者たちの心意気、意気込みには、「恵まれているな」と思った。

▼最後は泉谷と風吹の結婚式の後の記念写真で、集まった一同をカメラマンの安田が撮る。

渡辺 最後の写真でまとまった。これから生きて行くのだと。

安田 暗い、どんづまりのドラマだと思っていたが、今みて希望を感じる。「水曜どうでしょう」の「おんちゃん」と、ドラマに出るのは同じモチベーションで、棲み分けを意識する必要はなく、混在していると思う。「ミエルヒ」はやりたいことだけやれる環境で楽しかった。



安田顕氏

ラジオのページ

放送人の会「ラジオプロジェクト」設立について

田中秋夫

現在、民放ラジオ業界は激動の時代を迎えています。最大の問題はラジオ広告費の減少傾向が止まらないことです。

日本民間放送連盟が例年公表している資料によると2012年度の全国のAM局の営業収入はピークだった1991年の約4割に、FM局はピークだった2000年の約6割に落ち込んでいるそうです。特にローカル局の落ち込みが激しく、局によっては経営的に存続が危ぶまれる状況だと言います。

そこで総務省は、県ごとに独自のローカル番組を制作することを義務づけている放送法の改正案を提出し、2015年度から県境をまたいで経営統合する局にはローカル番組の共通化を認める方針を打ち出しました。その結果、ローカルラジオが築いてきた「地域密着編成」が希薄になり、リスナーの更なる「ラジオ離れ」を危惧する声も出ています。

しかし、営業収入の減少による制作費削減が極限にまで達している局が多数存在しているのが現実であり、総務省も「背に腹は」の策を取らざるを得ないのでしょう。一方、都市部に於けるAM波の難聴解消の為に総務省は遅くとも来年の秋までにはAMラジオ局に対して中継用にFMの

電波を認可し、AMラジオをサイマルでFMでも聴けるようにするとの方針を打ち出しました。この電波政策の変更によって従来のAM局とFM局という電波の違いによる「住み分け」が無くなり、激しい生き残り競争が展開されることが予想されます。

さらにもう1つラジオ界で注目されている大きな変化はインターネットを利用したラジオの再送信システム「radio・jip」のエリア制限の撤廃です。

従来は電波エリアに準じた再送信のみ可能とエリア制限がありました。月額378円の「ラジオプレミアム」に加入すれば全国60局の番組をエリアフリーで聴くことが出来るようになりました。

現在、月平均1300万人が利用しているようですが、インターネットを利用する若者世代がラジオに接触する機会が増え、「若者のラジオ離れ」に歯止めがかかることを期待する声もあります。

このように現在ラジオを取り巻く環境は激変の真つ只中にあります。

この度「放送人の会」のラジオ出身の有志が「ラジオプロジェクト」を設立しようと考えた動機は、ラジオがこの厳しい状況をいかに乗り越えていくのかを広くラジオ関係者と共に考え、ラジオ文化を発展させたいとの強い思いからです。

当然、環境の厳しさを考えれば「ラジオプロジェクト」が出来ることには限界があると思いますし、ドン・キホーテ的な感もありませんが、ラジオ文化を愛する人たちがアイデアを出し合うことで「勝手連」的に

ラジオを応援していけばこの状況を少しでも変えることが出来るのではないかと考えています。

現在、「放送人の会」会員ラジオ関係者の皆さんへ積極的な参加を呼び掛けると同時に、新たなラジオ関係の会員獲得に取り組み、5月20日現在で22名の賛同者を得ています。多くの方から「この会の発足を待っていました」との反響もいただきました。

左記の一文は松尾羊一理事を中心に6人の発起人が呼びかけた手紙です。

「ラジオプロジェクト」参加の呼びかけ

謹啓 春風の候、貴兄におかれましてはますますご活躍のことと存じ上げます。

さて、突然で失礼とは存じますが、私たち「放送人の会」会員のラジオ出身者有志からラジオ関係者の皆様にお手紙を差し上げることにいたしました。

私たちラジオ出身者有志は「ラジオプロジェクト」を立ち上げることにしました。現在、音声放送再編の渦中にあるラジオの制作現場はどうあるべきか、現場目線で課題に取り組み時期ではないかと懸念しております。

ラジオ人による「ラジオの広場」に皆様の声と知恵を結集したらどうか。個々の番組や作品で評価されがちなテレビとは違ってラジオはパーソナリティという「放送人格」を開発し、地域の生活情報、エンタメ情報、ジャーナルな立ち位置から発信し、

聴取者の気分を共有するメディアになったことはご存じの通りです。

残念なことに現在ラジオを取り巻く環境は大変厳しいものがあります。

今こそラジオに関心を持たれる皆様と共に現状を語り合い、提案し合う場を立ち上げる必要があると考えます。皆様の参加によってラジオ復興、いやニューラジオ創造を目指して現場の声を上げてみませんか？貴兄を放送人の会「ラジオプロジェクト」にお誘いする理由もここにあります。同封の「設立趣意書」他諸資料をご検討の上、前向きにお考え戴き、ぜひとも貴兄のご参加を切望いたします。

放送人の会「ラジオプロジェクト」

発起人一同

石井 彰 加藤節男 武本宏一

田中秋夫 三原 治 松尾羊一

コミュニティ放送局むさしのFM むさしのFM市民の会

鎌内啓子

コミュニティFMは今年の3月現在で、全国281局、関東地方39局、東京には8局ある。私が住んでいる武蔵野市には、1995年3月28日に開局した「むさしのFM」(78.2MHz)が、吉祥寺駅から5分の武蔵野商工会館の3階にある。阪神淡路大震災の直後、当時の土屋市長(現衆議院議員)の地域のよりきめ細かいコミュニティ情報を市民と共有しようという思いで、全国15番目に開局の運びとなった。

公募で集まった市民ボランティアの人は、「自分たちのメディア」に参画する熱気と期待で溢れ、局内には情報を持ち寄った市民が集い、勉強し、市民が制作、出演、情報をレポートする番組がいくつカスタートしたが紆余曲折がありこの形は1年半で終了した。

これを契機に全市を網羅して「FM市民の会」を結成した。会は「むさしのFM」に、市民側からの情報提供・発信することに関わり、なかでも、災害時にコミュニティFMが充分機能し役立つためには、市民が日常から番組出演やFAX・メール活用による情報伝達を心がけることを目的としている。

その活動の柱として「むさしのtoday」(月曜～金曜・9時20～30)出演は武蔵野市、近隣地区に在住の勤者で、取り上げる話題は本人の関わっていることや地域情報。もう一つが「発信！わが街・武蔵野人」(金曜・16時～16時20分)当会が企画・出演コーディネートを担当。ゲストは武蔵野地域を中心に、様々なジャンルで活動している人やグループを対象としている。

私が担当し印象に残っている方は、名編集者・筑摩書房の松田哲夫、映画監督・神山征二郎、平塚らいてう記念館館長米田佐代子、俳優・成田洵。皆さんに共通しているのが武蔵野をこよなく愛していることだった。

特筆すべきは市民の会が担当している番組「むさしのtoday」。年間260回通算4417回、「発信！わが街・武蔵

野人」は年間51回で通算642回と何れ

も開局以来続いている長寿番組であることだ。また、この会はむさしのFM市民の会日より「On Air」を年一回発行しこれも通算24号になる。A4タブロイド版8ページの構成は、番組出演者の「私のおとておきの武蔵野」、「today」、「武蔵野人」、「吉祥寺チャリティライブフクシマを思う」、の年間記録をメインに、年2回の防災訓練特番中継レポート報告、関東圏コミュニティFM局へのバス研修ツアー報告などとなっている。

私が市民の会に参加して8年になるが、市民の会のパワーはすく、あらためてラジオは楽しんでやる気さえあれば誰でも作れる身近なメディアだと思ふ。

今や、コミュニティFMは、サイマルで日本中はおろか地球中何処でも同時に聞ける時代になったので、各局がその地域の独自性を発信するとグローバルなラジオになる可能性を秘めている。

「Radio-kok-jpプレミアム」でラジオを聞いてみた。

加藤節男

4月1日からラジオの「Radio.jpプレミアム(エリアフリー聴取)」で全国のAM FMラジオ局の60社の番組が開けるようになった。といっても、日本全国の民放ラジオはAMが47社、FMが53社の合計100社なので「エリアフリー」参加局は全体の6割、関西のMBSラジオなど意外な

局が開けない。

「それを聞くのに350円(月額税別)は高いよ」とぶつぶつ言いながらも、放送人の会のメンバーとして、苦境のラジオに何かお手伝いできないかと愚考する身としては有料会員にならざるを得ない。

しかし、入って何が困ったかといつて、どこの局のどの番組を聞いていいのかわからないのだ。なにしろ番組情報が少ない。ラジオは何も教えてくれない。エリアサービスのサービスマンでは各局のPRページがあったのだが、「エリアフリー」になると、地域別に局のロゴが並んでいるだけ。局にアクセスしても、「是非聞いてよ」との熱意を感じさせる番宣に出会わない。ほとんどの局の番組表には番組名と出演者しか載っていない。これはラジオの統一フォーマットなのだろうか。また、その番組名だけでは、番組内容が皆目わからないのが多い。「何のための番組名なのだ」とまた、ぶつぶつ。

ラジオは「エリアフリー聴取」にも各局のPRページを作ってくれないだろうか。仕方がないから、雑誌BRUTUSの「なにしろラジオ好きなもので②」を参考にしながら、幾つかのラジオ局の番組を聞いてみた。といっても、モバホでなくパソコンでの聴取の上、「ながら聴取」ができないタチなので、たいした数の番組は聞けない。以下、雑感です。

録音番組がつまらないことやラジオショッピングが多いのは東京の局と同じ。前者では、改めて、作家出身でしっかり書きこんで出演者の魅力を引き出せる放送作

家が少なくなり、放送作家の仕事が番組全体を構成するのがメインとなったせいか、

台本のある録音になると逆につまらなくなるタレントさんが多かった。後者に関しては、東京では、また、局のブランドと出演者への信頼度を前面に出して購買欲を誘っているが、ローカル局では売り手側が主役となり、番組司会者やアシスタントが合いの手を入れたり、つまらない台本を読まされているのを聞くと気の毒になる。売り手から見れば、番組出演者より説得力があるとしてのこと。冷徹な現実と言えなくもない。

意外な発見は、夕方の東京発のニュース番組のつまらなさ。ローカル番組の中で聞くと、地元新聞提供のニュースがビビッドな分だけ一日のまとめのニュース項目を並べた番組は役割を終えたようだ。「今、解説のないニュース番組なんて」と改めて感じた。

気に入った番組について書きたいが、残された行数が少ないので、二つだけ。ひとつは、CBCラジオの高名な「つばいノリオの開けば聞くほど」。「聞けば聞くほど」ラジオの原点を感じました。もうひとつは、福岡LOVE FMの「On Sunday」。現役DJ最高齢の「松井伸一」と、大人の女性「山本真理子」が、大人が過剰に上質な休日の提案を行う情報・音楽エンタテインメントプログラムでした。

附け足し、この番組に限らず、優れた女性アシスタントが多い事に感心しました。それにしても、東京の人間には「350円」はやはり高い「エリアフリー」。

いろはに時代劇 くその拾い

菅野 高至

ホシ書き旅館の続編を書く。

中央線の中野駅近くの「福屋」という旅館に、80年代の初め頃、脚本家の富川元文さんを缶詰にしたことがある。先日、廃業した福屋がどこにあったのか、中野駅南口を出て、線路沿いに少し歩いてみたが……、まるで分からなかった。

渋谷のNHKにはちょっと遠いのだが、修学旅行の生徒さんが泊まるので、部屋数が多く、同時期に別番組の複数の脚本家が長逗留できる利点があった。

富川さんが執筆していたのは、山谷のドヤ（簡易旅館）の女将を主人公にしたドラマ「3年7月放送」の脚本だった。修学旅行で使う宿だけに風呂が大きく、打合せが終わると、一緒に湯船につかる。湯船の中で、ふと思いついて打合せが続く。

「あなたはどうして、日常の挨拶を台詞に書いてくれないのか？」と日頃の疑問をぶつける。彼は「俺が生まれ育った土地では、挨拶に言葉はない、『おう！』と言いつたのだ」と愕然と答えた。そうか、君は貧しい言語圏で育つたようだ、これからの課題は「日本語の勉強だね」と偉そうに言う。恥ずかしき哉。ああ、我が青春だ。因みに、富川さんは名古屋出身である。

風呂から上がって、部屋を取って一眠りしてから、明け方起きて、演出コンテを作り、腹ごしらえをしてNHKに向かう。朝食に、

大きなエビフライが出てきたのを、なぜか今も鮮明に覚えている。

この時、後に清左衛門の続編を書くことになる山内 久さんと、奥様の立原りゆうさんに初めてお会いする。人間模様班の「街・若者たちは今」の演出スタッフから、福屋に行くなら、ついでに缶詰の久さんに、印刷台本が何か届け物を頼まれたのだ。福屋に着いて、山内さんの部屋を開けると、久さんは腹ばいになって寝ながら書いていた。風邪を引いて治りかけだったらしい。久さんがわら半紙とか、新聞広告の裏に書いた原稿を、和服を着たりゆうさんが正座して、原稿用紙に清書をしていた。机には、先の尖った鉛筆がきれいに揃えてある。

「幕末太陽伝」と「豚と軍艦」。あこがれの作家が広告の裏に書いている！ ちよつと淋しいぞ。後に親しくなると、久さんに確かめると、原稿用紙のマス目が無いと、余白が自由になり、書き足し変更などが便利だという。また、りゆうさんの鉛筆削りし原稿の清書は、野田高梧の娘時代から、慣れ親しんだ日常であつた。

久さんのことを書き出すと時代劇の話に帰れなくなるので、清左衛門に戻る。

忘れられないお手紙がある。第2回の放送後に、視聴者から女文字の葉書が届いた。手元に無いので、細部は記憶の彼方だが、大意「余命わずかと宣告された夫と一緒に、病室で清左衛門を見たいです。夫は『毎週、楽しみができた』と喜んでいきます」とあつた。ありがたいが、切ない……。

それから、金曜日の夜、ドラマ部で放送を

モニターしながら、見てくれているだろうかと気になり出す。仕事に忙殺され老夫婦の件は忘れかけてしまう。と、最終回を前に、くたんの女性から封書が届く。

「仲代達矢の時代劇、最期にいいものを見せて貰っているねと、指折り数えながら、夫は金曜日の来るのを楽しみにしておりました。……最終回を待たずに旅立ち、第10回の「夢」が最後になりました。ありがとうございます。おかげさまで安らかに眠るように逝きました。」

夫婦二人で見た「夢」が最期の思い出となる……。清左衛門ならではの、素敵な夫婦の愛情物語である。

最期に何を見たいのか、真面目に考えておかねばと思う。死ぬ前に見たいこの一本、果たしてどんなドラマなのか、それとも映画なのだろうか……。

竹山洋さんは、「夢」のあと、終盤 第11回から最終回まで残りの4本を、決して早くは無いが、一気に書き上げる。第12回「闇の談合」の放送日6月18日に、野党提出の宮沢内閣不信任案が一部与党議員の賛成票があつて可決されたため、ニュース枠が拡大され、第12回は次週送りの放送となった。闇の談合を仕掛けた政治家は、小沢一郎率いる羽田派の面々だった。

政争のおかげで、6月25日放送の「闇の談合」、視聴率（関東）は13・4%。清左衛門は最高の視聴率を取る。なお、平均視聴率は11・7%であった。

そして、第10回の「夢」は、平成5年度第9回芸術作品賞（文化庁主催）を受賞する。

ルーティンの連ドラでグイグイの賞が取れるとはまさしく夢のようであった。

94年3月8日付けの藤沢さんのお葉書

「冠者『清左衛門残日録』の芸術作品賞受賞が決まったそうでおめでとございます。主演の仲代さんをはじめとする出演者のみなさんも力のもつた演技でしたが、菅野さんたちスタッフの意気込みも伝わってくるようないい作品でした。そういうところが認められたのでしょうか。大変うれいお知らせでした。 忽忽」

この余勢を撃つて、その年の夏、95年の正月時代劇「清左衛門スペシャル」の企画が持ち上がる。使える原作は使い切つて無い。残っているのは藤沢さん自ら失敗作と認めた短編で、藤沢さんの了解を取って、原作から外した「高札場」だけであつた。

厚顔無恥の極みである。藤沢さんにお目にかかり、高札場を取掛にスペシャルを作りたいたと頭を下げた。「お任せします」と藤沢さんが許してくれる。優しかった。

正月ドラマ119分「清左衛門残日録」仇討ち！播磨屋の決闘！、ほぼオリジナルである。清左衛門のマドンナ、かたせ梨乃の収録スケジュールが取れず、ヒロインに浅丘ルリ子を迎える。共演は室田日出男、森繁久彌であつた。

翌年の6月、仲代さんは最愛のパートナー宮崎恭子さんを病で失う。翌97年1月、藤沢周平さんが逝く。その年の秋、仲代さんに会うと、唐突に話しかけてきた。

「菅野ちゃん！ 清左衛門の役作り、違ってた、あれは嘘だ！」（つつく）

第44回放送人句会

◇平成二十六年五月七日(水) ◇於：赤坂・表参道

◇選者：星野高士

◇出席：伊藤親郎、荻野慶人、豊田まつり、新村もとを、橋本きよし、林備後、藤森いずみ、森治美、西川阿舟

◇不在投句：鶴橋康夫、山見ほん太

◇兼題：神祭、母の日、とり(映画演劇テレビ用語)

【星野高士特選】
夕映えの縁に座し母の日の母
願白くこそりともせぬ蔵の中
山高ければ山に向ひて祭笛
御奥かく味噌屋魚屋漬物屋
コップ酒呷り大トリ夏をとり
取前は単衣の女講談師
大とりは今乗屋入り夕薄暮
山里の夜気一身に糸取女

【星野高士特選】

夕映えの縁に座し母の日の母

願白くこそりともせぬ蔵の中

山高ければ山に向ひて祭笛

御奥かく味噌屋魚屋漬物屋

コップ酒呷り大トリ夏をとり

取前は単衣の女講談師

大とりは今乗屋入り夕薄暮

山里の夜気一身に糸取女

【星野高士選】

母の日の母の大きな玉子焼

字ごに地車出して綺羅競ふ

太ももで路練り歩く二社祭

母の日に見知らぬ子より紅い花

舟渡御やかつては泳ぎ渡御なりし

氷川さまガラガラポンと祭籠

繭掻きの背に安らげき児の寝息

四方山に届け祭の笛太鼓

玉繭の干され煮らるるいのちかな

御城下は暮れて祭の笛太鼓
世を扱ねて山の庵に繭ごもる
争ひてふと気がつけば母の日の
母の日や覚悟なきまま母となる
玉繭や世界遺産となるを待つ
かりそめの恋に恋する祭かな
母の日もつくなくひ虚し墓に花
名人の祭籠なり早調子
貴奴また祭囃子に浮かび出づ
玉繭の庵に蛹の死屍ありて
母の日の母は白寿とは見えず
日が暮れてお祭りすんで恋病
梅田とはいのちの形繭ごもる
繭玉の糸の彼方に絹の道
メーデーの行列のトリ旗なびく
母の日に描きし母の絵古びけり
耳元に母のこゝろあり母の日に

御城下は暮れて祭の笛太鼓

世を扱ねて山の庵に繭ごもる

争ひてふと気がつけば母の日の

母の日や覚悟なきまま母となる

玉繭や世界遺産となるを待つ

かりそめの恋に恋する祭かな

母の日もつくなくひ虚し墓に花

名人の祭籠なり早調子

貴奴また祭囃子に浮かび出づ

玉繭の庵に蛹の死屍ありて

母の日の母は白寿とは見えず

日が暮れてお祭りすんで恋病

梅田とはいのちの形繭ごもる

繭玉の糸の彼方に絹の道

メーデーの行列のトリ旗なびく

母の日に描きし母の絵古びけり

耳元に母のこゝろあり母の日に

【会員互選】

母の日を気付かずあくびしてをられ

腕白も白く塗られて夏祭り

母の日や疚しさいつか薄れたる

電飾のビル街を練る祭山車

浅草の祭にとこか明治の香

繭ごもる容してモンゴルのバオ

大御所居り彼はとり前夏安居

神輿渡御サンバ渡御とて浅草は

繭玉を咲かせ湖国の梁太し

祭の夜神に逢ひたる瞬時あり

ひとりにと祭の中に身を置きぬ
水しぶきとざりと暴れ神輿かな
母の日に白髪染め合ふ母娘かな
ひたすらに糸吐きて繭静かなり
母の日や責めはなけれど疎ましき
母の日や自画像の皺延ばしけり
に間に合わなかつたもの

ひとりにと祭の中に身を置きぬ

水しぶきとざりと暴れ神輿かな

母の日に白髪染め合ふ母娘かな

ひたすらに糸吐きて繭静かなり

母の日や責めはなけれど疎ましき

母の日や自画像の皺延ばしけり

に間に合わなかつたもの

【選者吟】

玉繭に新らしき夜の続きをり

夜空にも二社祭の微熱あり

母の日や災害用のリュック買ふ

大トリは誰かともめる祭籠

祭あと未広亭の取りを見に

母の日の花舗に広さのなかりけり

御旅所に外れ馬券の舞ひ込みし

次回放送人句会

○7月9日(水) 18時頃から

○赤坂・表参道

○兼題：団扇、百合、氷水、電波(夏の季語を入れて)



新刊紹介

考証要集

秘伝! NHK時代考証

大森洋平



著者の大森氏はNHKドラマ番組部シニアディレクターで、長年にわたり大河ドラマをはじめ、NHK時代劇全般にわたり世相、風俗、言葉、時代背景などから疑問点をチェック、史実にあった時代考証で陰から映像表現を支えた人。例えば大河ドラマなら、「台本の初稿が出来ると、演出者、美術デザイナー、専門の研究者(大学の先生など)、NHK内部の考証担当(かく申す私)が定期的に集まり、それを読み合わせて検討する「考証会議」を開きます(中略)。NHK内部で交渉にあたる私の役目は一口に言いますと専門家の守備範囲外をカバーし、複数の専門分野の谷間に生じた疑問に答えることです。時代劇を表現論から補足するわけだが、戦後70年ともなれば戦前戦後の風俗や言葉だって「歴史」に埋もれている。昔を知る老人は鬼の首でもとつたように間違いを指摘してくる。雑学家の海に漂いつつ、史実に添い寝して集めた膨大な考証メモ」集にまとめた仕事は貴重である。(M)

(620円 文春文庫)

会員名簿

2014.5.30 現在

【あ】青木裕子 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 【い】池田正之 石井彰 石井ふく子 石高健次 石橋健司 石橋冠 磯智明 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 市川哲夫 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上佳子 井上良介 今井義典 岩澤敏 岩瀬弥永子 【う】上田洋一 上村忠 碓井広義 臼杵敬子 歌田勝彦 内山洋道 宇野昭 【え】江口展之 榎本恒幸 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大池雅光 大蔵雄之助 太多亮 太田敬雄 太田昌宏 大西康司 大西文一郎 大野秀樹 大原れいこ 大山勝美 大類啓 岡弘道 岡田晋吉 緒方陽一 岡野真紀子 岡村黎明 小川治 小河原正巳 沖野暁 荻野慶人 尾田晶子 小田久榮門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤節男 加藤拓 加藤迪 加藤義人 金澤宏次 金沢敏子 金子登起世 金平茂紀 加納孝夫 川平朝清 鎌内啓子 上安平冽子 亀谷弘美 鴨下信一 川喜田尚 川口健一 川口幹夫 河村正一 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北川祐美香 北出晃 北林由孝 北村美憲 北村充史 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 久保志穂 隈部紀生 倉内均 訓覇圭 黒沢淳 【こ】小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 児玉久男 後藤和晃 小山紳人 近藤一男 近藤邦勝 近藤晋 今野勉 【さ】斎藤伸久 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤敦 佐藤年 佐野有利 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 志津木敬 四宮康雅 柴田昌平 嶋田親一 清水満 志村一隆 下崎寛 下重暁子 白井博 【す】菅野高至 菅野嘉則 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木典之 鈴木道明 鈴木嘉一 須磨章 【せ】関佳史 せんぼんよし 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 竹中一夫 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中則広 田原茂行 玉城朋彦 【ち】崔銀姫 【つ】辻本昌平 土屋敏男 露木茂 鶴橋康夫 【て】寺島高幸 【と】東城祐司 堂本暁子 戸田桂太 外崎宏司 豊田由紀子 豊原隆太郎 【な】中尾幸男 中込卓也 中崎清栄 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村美美子 中山和記 並木章 【に】新村もとを 西憲彦 西村与志木 西ヶ谷秀夫 西川章 仁藤雅夫 二宮文彦 丹羽美之 【の】信井文夫 【は】橋本深 林健嗣 原由美子 原田令嗣 【ふ】深町幸男 藤井チズ子 藤久ミネ 藤村忠寿 【へ】逸見京子 【ほ】星田良子 星野輝一 堀川とんこう 【ま】前川英樹 牧之瀬恵子 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本修 鯨りんたろう 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 南諫 三原治 三村景一 三村千鶴 宮崎洋 宮川謙一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】本木敦子 諸橋毅一 門奈昌彦 【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山鹿 達也 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】横山英治 吉澤保 吉田賢策 吉永春子 吉村豪介 吉村直樹 【わ】若松央樹 和崎信哉 渡辺浩平 渡辺敏史 【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟

新入会員紹介(申し込み順)

訓覇圭 (くるべけい) 91年NHK入局。主な作品「土曜ドラマ「ハゲタカ」」「外事警察」「TARROの塔」、連続テレビ小説「あまちゃん」など。

渡辺達平 (わたなべこうへい) 86年博報堂勤務。97年愛知大学。01年から北海道大学。現在メディアコミュニケーション研究室教授。専門分野・中国メディア、中国地域研究。

南諫 (みなみしよう) 78年NTV入社。技術局送出担当。98年テレビ新潟へ。技術局長、技術・編成統括業務取締役、経営統括専務取締役を経て現在監査役。信越電波協力会長表彰、第27回電波技術協会賞受賞。玉城朋彦 (たまぐしくともひこ) 元琉球放送報道局キャスター、プロデューサー。現在NHKメディアエクスプレス代表取締役。著書「沖縄放送研究序説」ほか。論文「戦後沖縄メディアと地域貢献」ネット時代とジャーナリズムの社会的責任」など。

川平朝清 (かわひらちようせい) 元NHK、OHK、RBC。再入会。藤村忠寿 (ふじむらたたとし) 90年北海道テレビ入社。「水曜どうでしょう」チーフディレクター。舞台「蟹頭十郎太」演出。ドラマ「歓喜の歌」「ミエルヒ」(芸術祭優秀賞)「ギヤラクシー優秀賞」「幸せハッピー」演出。著書「けもの道」「悩むだけ損」てれびバカ」(腹を割って話した)など。

北林由孝 (きたはやしよし) 67年フジテレビ入社。現在ビーエスフジ社長。佐野有利 (さのありとし) 92年静岡放送入社。主にラジオ報道制作で報道番組とラジオドキュメンタリーを制作。13年ラジオ局営業推進センター。現在ラジオ局編成制作部副部長。02年ギヤラクシー賞奨励賞。10年国民放送賞優秀賞受賞。

北川祐美香 (きたがゆみか) 97年アド電通入社。その後TBSテレビデジタルビジネソ局。08年、㈱トクベイツでロコミの効果測定、ソーシャルリスニングの活動をスタート。現在フリーランスでメディアコミュニケーション代行を行う。WOHマーケティング協議会実行委員長。

若松央樹 (わかまつひろき) 92年NTV入社。03年フジテレビへ転職。ドラマ部プロデューサー。主な作品「優しい時間」「電車男」「のだめカンタービレ」「拝啓・父上様」「ファーストキス」(全開ガール)「最後から2番目の恋」「最高の離婚」「失恋ショコラティエ」

編集後記

▼松尾さんは腎臓を半分切除、新刊紹介だけ書いていただきました▼編集部に新人が入りました。逸見京子さんです。よろしくお願ひします▼予算が厳しく、会報の費用も節約する必要があります、夏の消費号はやめ、次号は日韓中フォーラム特集で9月末発行の予定です▼今号は初めて20ページを超える大部になりました。これからもっとコンテンツになります。(視感)